



(京都西南部)

長岡京跡右京三条二坊十四町推定地にあり、三条京間小路南側溝の検出が予想された。このため、長岡京跡右京第二三九次(7ANIKC-4地区)調査として行った。

当調査では、長岡京期の掘立柱建物一棟と、三条京間小路南側溝が検出された。この小路側溝は、ほぼ推定位置に検出され、その規模

## 京都・長岡京跡(4)

- 1 所在地 京都府長岡京市今里北ノ町
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)八月～九月
- 3 発掘機関 (財)長岡京市埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 岩崎 誠
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 八世紀末
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、倉庫建設に伴う事前調査として実施した。調査地は、

は、幅一・五m、深さ〇・二mを測る。埋土は、下層の砂層と上層の粘質土層に分かれ、両層から長岡京期の遺物が出土した。木簡二点は、上層から出土したもので、伴出遺物には、土器類、カマコ、斎串等があり、下層からは、和同開珎、墨書土器等が出土した。

### 8 木簡の积文・内容

(1) 〰日部郷□連赤人五斗 178×27×9 032

(2) □□□×

×□□□□ 150×(13)×7 011

(3) 「〇」(斎串の墨書) 211×32×2 061

(岩崎 誠)

